



TITLE:

7. 共同利用研究, 7.4.共同利用研究会

AUTHOR(S):

CITATION:

7. 共同利用研究, 7.4.共同利用研究会. 霊長類研究所年報 2020, 50: 136-138

ISSUE DATE:

2020-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/254662>

RIGHT:

7.4 共同利用研究会

7.4.1 2018K-1 ニホンザルの「暮らし」を俯瞰する—遺伝子・行動・生態・人との関わり—

代表者：辻大和（京都大学霊長類研究所）

本研究会はニホンザル（*Macaca fuscata*）の研究者が一堂に会し、ニホンザルの「暮らし」に関する最新の話題を交換する場である。今回は、以下の内容で実施した。

6/8（土）於：京都大学霊長類研究所大会議室 座長：田中洋之（京大・霊長研）・杉浦秀樹（京大 WRC）

- 13:00 Wanyi Lee（京大霊長研）『Gut microbiome shift of Japanese macaques as a result of human encroachment』 コメンテーター：牛田一成（中部大）
13:50 足田研一郎（京大理・人類進化論）『ニホンザルの瞬きに見る毛づくろい中の集中力について』 コメンテーター：中野珠実（阪大）
14:50 壹岐朔巳（総研大）『ニホンザルの闘争遊びインタラクションにおける行動協調メカニズム』 コメンテーター：島田将喜（帝京科学大）
15:30 寺山佳奈（高知大）『里山におけるニホンザルの環境利用』 コメンテーター：辻大和（京大霊長研）
16:40 清家多慧（京大理・人類進化論）『ニホンザルにおける社会的遊びの終了時のコミュニケーションについて—取っ組み合い遊びの事例より—』 コメンテーター：島田将喜（帝京科学大）
17:30 Nelson Broche（京大霊長研）『Salivary alpha-amylase enzyme is a biomarker of acute stress in Japanese macaques (*Macaca fuscata*)』 コメンテーター：山梨裕美（京都市動物園 生き物・学び・研究センター）
18:20 懇親会・ポスター発表

P-1 山口飛翔 ニホンザルの交尾期におけるオスの性的威圧への対抗戦略：休息時のメスの凝集性に着目して

P-2 辻大和・松原幹・白石俊明・澤田研太 野生ニホンザル（*Macaca fuscata*）の糞に集まる糞食性コガネムシ：種子散布への影響

P-3 半沢真帆・栗原洋介 ニホンザルにおける他群個体との距離に応じた行動変化：接近および回避について

P-4 Wada k, Tokida E, Ichiki Y Sympatric home range use in autumn with regard to forest productivity and Japanese monkey troop size along Yokoyugawa valley in Shiga Heights, Japan

P-5 栗原洋介（静岡大）ニホンザルはどこで枯死木を壊す？：主要採食樹と地形の影響

6/9（日）於：京都大学霊長類研究所大会議室 座長：栗原洋介（静岡大）

9:00 石川大輝（大阪大）『嵐山集団における未成年から超高齢個体の社会関係』 コメンテーター：高畑由起夫

9:50 田伏良幸（京大理・人類進化論）『ヤクシマザルの抱擁行動—成熟個体と未成熟個体の比較—』 コメンテーター：沓掛展之（総研大）

10:50 関澤麻伊沙（総研大）『ニホンザル野生群における infant handling：そのパターンと頻度の決定要因』 12:00 「ニホンザルの行動映像アーカイブ構築に関する話し合い」

約 50 名の参加者があり、活発な議論が交わされた。

7.4.2 第 3 回 犬山認知行動研究会議

開催日：平成 31 年 1 月 5～6 日

場所：公益財団法人日本モンキーセンター・ビジターセンター（参加人数：約 80 人）

世話人：友永雅己・三浦麻子（大阪大学）

これまで、京都大学霊長類研究所の共同利用研究会として、2005 年度から 2014 年度までの 10 年間、「犬山比較社会認知シンポジウム(iCS2)」を開催してきた。本研究会の特徴は、テーマの制約をはずし、ひろ

く、認知や行動に関する多様なトピックを一つの「場」に集約することによって、新たな研究者間の協働の創発をもたらすことを企図した点であった。年々参加者も増え、参加者らが連携し、それぞれの研究について議論する場を醸成し、また、彼らの間での共同研究が生み出されるようになってきた。この研究会は 2017 年度に「犬山認知行動研究会議」として新たに再出発し、認知や行動に関する幅広い研究者を糾合し、「メルティングポット」型の「ブレインストーミング」式の研究会としてこれまで 2 回の開催を重ねてきた。第 3 回の今回は犬山を離れ、世話人の一人が所属する大阪大学中之島センター 703 教室において 2019 年に 1 月 11-12 日に約 80 人の参加者で開催した。今回も比較認知科学、認知心理学、社会心理学、研究公正、認知神経科学、犯罪心理学、ロボット学、など多岐にわたる研究テーマの発表があり、活発な議論がなされた。

なお、本研究会は、犬山認知行動研究会議実行委員会の主催、および京都大学霊長類研究所共同利用研究会、関西学院大学社会心理学研究センター、科研費基盤研究(B)19H01750「社会心理学の基盤を裾野から確認する」、科研費基盤研究(S)15H05709「野生の認知科学」、Japanese Community for Open and Reproducible Science (JCORS)との共催で開催された。

<プログラム>

2020/1/11

12:00 受付開始

- | | | |
|------------|-----------|---|
| 10:30 小森政嗣 | (大阪電気通信大) | 「かわいい形」をガウス過程回帰で推定する |
| 10:50 松田昌史 | (NTT 基礎研) | Python 歴半月で動画内人物のまばたきを数える苦労と成果 |
| 11:10 高橋英之 | (大阪大学) | パトラッシュの設計論 |
| 11:30 渡邊伸行 | (金沢工大) | 捜査用似顔絵描画時の捜査員と目撃者のコミュニケーション |
| 11:50 木村昌紀 | (神戸女学院大) | 119 番通報の心理学 |
| 13:00 中川裕美 | (大阪体育大) | 野球ファンの社会的アイデンティティ |
| 13:20 小林智之 | (福島県立医大) | 地域の見え方と避難先コンフリクト |
| 13:40 坂田陽子 | (愛知淑徳大) | 高齢者はコミュニケーションの天才！ |
| 14:00 石井奏有 | (筑波大) | 高齢になるとなぜ学習が阻まれるのか |
| 14:20 白井述 | (新潟大) | 拡張現実技術による映像提示は子どもの行動にどのように影響するのか？ |
| 15:00 細馬宏通 | (早稲田大) | センサーを用いた共同作業のタイミング分析 |
| 15:20 中井彩香 | (首都大学東京) | 質問紙を使わずに妬みややすさを測定できるか？ |
| 15:40 水野景子 | (関西学院大) | 繰り返しのある社会的ジレンマ状況における意思決定の統計モデリング |
| 16:00 武藤拓之 | (立命館大) | たのしい認知モデリング |
| 16:20 小杉考司 | (専修大) | 心理学におけるベイズ統計の位置付け |
| 16:40 国里愛彦 | (専修大) | Japanese Community for Open and Reproducible Science (JCORS)の紹介 |
| 17:00 小塩真司 | (早稲田大) | パーソナリティ特性の時代変化：その後の検討 |
| 17:40 小田亮 | (名古屋工大) | 進化教育学あるいは「教えること」の適応的意義 |
| 18:00 釜屋憲彦 | (慶応大) | 環世界的観察から見えてくること |
| 18:20 平石界 | (慶應大) | 行動免疫行動免疫と人は言うけれど |

2020/1/12

- | | | |
|-------------|---------|---------------------------------------|
| 9:00 犬塚美輪 | (東京学芸大) | SNS コメントは理解と態度形成に影響するか |
| 9:20 樋口匡貴 | (上智大) | あのツイートは効果的か？：公的機関によるツイートの効果検証 |
| 9:40 橋崎諒太郎 | (名古屋大) | シャドーイング萌芽研究：1000 本ノックは必要か？ |
| 10:00 生田美希 | (名古屋大) | 外国語で比喩は理解できるのか？—第二言語比喩理解モデルへの心理言語的検討— |
| 10:20 寺井雅人 | (名古屋大) | 萌芽発表：英語で考え英語で話せるようになるのか？ |
| 11:00 竹島康博 | (同志社大) | 二課題を用いた視聴覚刺激の時間ずれに対する急速再校正過程の視野間の比較 |
| 11:20 中村航洋 | (早稲田大) | 顔印象の心理学研究から考えるルックス至上主義の世界 |
| 11:40 難波修史 | (広島大) | リアルガチな表情が模倣ベースの情動伝染を引き起こす |
| 12:00 壺岐朔巳 | (総研大) | 警戒心は伝染するか |
| 12:20 佐藤侑太郎 | (京都大) | 怪我をした他者に対する大型類人猿の生理的反応 |
| 12:40 澤幸祐 | (専修大) | 動画メッセージ |
| 13:40 堀田崇 | (京都大) | 魚類を対象とした推移的推論の検証 |

14:00	高木佐保	(麻布大)	ネコの社会-空間認知
14:20	橘亮輔	(東京大)	小鳥機械論：さえざり学習の数理
14:40	朱思斉	(九州大)	雲南省少数民族的空間情動比喻
15:00	仁科国之	(高知工科大)	一般的信頼と信頼行動の関連
15:20	鮫島和行	(玉川大)	計算論的社会神経科学の方法論

(友永雅己)

7.4.3 「ニホンザル保護管理に関する研究の最前線：成果の国際展開に向けて」

日時：2020年2月8日（土）

場所：地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）

研究会世話人：江成広斗（山形大）、辻大和（京大・霊長研）

ニホンザルによる農業・生活被害の顕在化をうけ、個体群・生息地管理や被害防除に関する研究は進展し、それらを現場に生かすための政策研究も精力的に進められている。そこで、**Mammal Study** 誌に関連成果を紹介する特集を計画し、この特集記事の取りまとめを兼ねた成果報告会として共同利用研究会「ニホンザル保護管理に関する研究の最前線」を地球環境パートナーシップオフィスで2020年2月8日に開催し、約40名の参加者があった。発表演題は以下の8題であった。（1）集落アンケートを用いたニホンザル被害対策の効果予測、（2）行政アンケートをニホンザルの保護管理にどう生かすか？、（3）農地の存在がニホンザル群の群落利用に与える影響、（4）兵庫県篠山市ニホンザル群の土地利用に捕獲等の被害対策が与える影響、（5）スギ・ヒノキ高人工林率地域におけるニホンザル野生群の環境利用、（6）房総半島のニホンザルの遺伝的状況と保全緊急性、（7）ニホンザル地域個体群の被害管理手法とその成果、（8）アジアにおける霊長類被害問題についての研究：総説。当該研究会にて進められた議論をもとに、2021年度内に特集論文の発刊を目指す。

<プログラム>

10:30-11:00

農地の存在がニホンザル群の群落利用に与える影響

海老原寛（野生動物保護管理事務所）・高槻成紀（麻布大学いのちの博物館）

11:00-11:30

ニホンザル問題の歴史的経緯と保護管理にかかわる理論・技術の到達点

江成広斗（山形大）

11:30-12:00

行政アンケートをニホンザルの保護管理にどう生かすか？

江成はるか（雪国野生動物研究会）

13:00-13:30

房総半島のニホンザルの遺伝的状況と保全緊急性

川本芳（日本獣医生命科学大学）

13:30-14:00

兵庫県篠山市ニホンザル群の土地利用に捕獲等の被害対策が与える影響

清野未恵子（神戸大）・森光由樹（兵庫県立大）・清野紘典（野生動物保護管理事務所）

14:00-14:30

スギ・ヒノキ高人工林率地域におけるニホンザル野生群の環境利用

千々岩哲（地域環境計画）・西邨顕達（同志社大）

14:30-15:00

アジアにおける霊長類被害問題についての研究：総説

辻大和（京大霊長研）

15:15-15:45

集落アンケートを用いたニホンザル被害対策の効果予測

望月翔太（福島大）

15:45-16:15

ニホンザル地域個体群の被害管理手法とその成果

森光由樹（兵庫県立大）

16:15-16:30

総括